

医学類

学生の確保 (人)	年次		定員	志願者	受験者	合格者	入学者	
	1年次		95 ※ -	486 ※ -	432 ※ -	95 ※ -	95 ※ -	
	編入学・再入学		- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -	
学生の進路 (人)	卒業者	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他
			企業	教員	公務員			
- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -	- ※ -

・※は外国人留学生を内数で示す。

1 医学類の活動

[教育]

「大学説明会」「大学ガイダンス」「高等学校出張講座」などの社会に向けての広報活動を積極的に行ない、医学類の教育方針などの周知を図った。

入学試験の理科をこれまでの2科目必修から3科目中の2科目選択とした。

1年次生は入学当初から「人間学入門」をチューリアル方式により学習し、また「医療・福祉現場でのふれあい」で臨床現場を体験することにより、医学を学ぶ目的意識を高めるようにした。

次年度から新カリキュラムがスタートするが、チューリアル方式の大幅拡大に備えてチューター養成のワークショップを3回施行した。さらに、学外講師を招き、医学教育ワークショップと客観的試験問題作成のワークショップも開催した。

医学類教育課程委員会の下での教育改革委員会で討議を重ね、新カリキュラム、特に1年次の具体案を策定した。年次進行する新カリキュラムではチューリアル用の小教室が多数必要であるが、小教室の増加プランを策定、実行に向けて進んでいる。

[学生生活]

新入生に対するオリエンテーション終了後に上級生が歓迎合宿を主催し、1年次生のクラス担任や学群長、学類長も参加し新入生と交流を図った。1学期にはフレッシュマンセミナーにより、1年次生に対し多面的な指導を行なった。全学年の学生代表との合同クラス連絡会を開催して意見交換を密にした。

2 教員の教育業績評価の状況

医学教育評価ワーキンググループで評価のあり方について中間報告書をまとめたが、個々の教員を具体的に評価するには至っていない。しかし、医学教育企画評価室で評価作業案を策定し、実施する方向性で検討している。学生による授業や実習評価をアンケート調査によって行ない、結果を教員にフィードバックしている。

3 自己評価と課題

入学試験では受験者数が増加しており、合格者のレベルアップが期待できる。新入生が受ける新カリキュラムに対応できるように年次進行で施設整備を進めてきたが、特にチューリアル方式を大幅に拡大するためには一層の努力が必要である。1年次生の新カリキュラムは具体化できているが、2年次生以降のカリキュラムや成績評価法はその概略策定の段階に留まっており、重要且つ急を要する検討課題である。